



10-6

琵琶湖から世界へ

湖沼は、地球上に存在する淡水の約87%を占め、飲料水や産業用水の水源等として重要な役割を果たしています。しかし近年の気候変動等により、世界各地の湖沼にも様々な影響が現れています。滋賀県ではこれまでから国際会議などを通じ、琵琶湖を守る先駆的な取組を世界に向けて発信してきました。そして令和6年12月には、国連で「世界湖沼の日」が8月27日(第1回世界湖沼会議の開催日)に制定されました。引き続き、世界の湖沼環境問題の解決への貢献が期待されます。

琵琶湖から世界への発信

(1)「世界湖沼会議」の開催

世界の湖沼環境の保全に係わる行政担当者、研究者、市民が一堂に会し、共に考え、手を携え具体的な行動につなげていく契機とするため、滋賀県は1984年に「世界湖沼環境会議(第1回世界湖沼会議)」を提唱・開催しました。現在も、(公財)国際湖沼環境委員会(ILEC)等により、およそ2年毎に世界各地で開催されており、滋賀県から多くの方が参加し、琵琶湖での取組を世界に向けて発信しています。



写真10-6-1 国連サイドイベント「世界湖沼の日に関する特別ハイレベルパネル」での発信(2024年9月 ニューヨーク・国連本部)

(2)「(公財)国際湖沼環境委員会(ILEC)」の設立

国際湖沼環境委員会(ILEC)は、第1回の世界湖沼会議の成果を踏まえて、世界の湖沼環境の健全な管理方法の確立とその推進を行うことを目的に、1986年に設立されました。科学者等からなる科学委員会を内部に有し、その助言のもとに世界の湖沼環境保全にかかる情報収集・提供、調査研究、環境研修など国際的な活動を展開しています。



写真10-6-2
第1回世界湖沼会議の様子
(1984年8月27~31日 大津)

(3)「世界水フォーラム」への参加

世界水フォーラムは、3年に一度、世界中の水関係者が一堂に会し、水問題解決に向けた議論や展示などが行われる世界最大級の国際会議です。2003年3月には、第3回フォーラムが琵琶湖淀川流域で開催され、水不足、水質汚染、水をめぐる国際紛争など、顕在化している水の危機を解決するため、水に関わるあらゆる分野の人が集まって議論しました。それ以降も、滋賀県は琵琶湖での取組を世界に向けて発信し続けています。2024年5月にインドネシア・バリで開催された第10回世界水フォーラムにおいてもマザー・レイク・ゴールズをはじめとする取組を発信するとともに、「世界湖沼の日」の制定に向けた呼びかけを行いました。今後も湖沼問題が世界の水議論の主要課題として位置づけられるよう、湖沼の重要性を発信していきます。



写真10-6-3 第10回世界水フォーラム(2024年5月 パリ)

琵琶湖保全再生課